

# コンステックHD テクニカルレポート

CONSTEC HOLDINGS TECHNICAL REPORT



## 巻頭言

株式会社グランテック  
代表取締役社長

永島 勝之



# 令和の時代に向け更なる躍進へ

株式会社コンステックが創立50周年を迎えました。1969年（昭和44年）創立以来、オイルショック、円高、バブル崩壊、リーマンショック等の社会的・経済的に深刻な背景の中、会社を継続し、また躍進出来た事は、社員が常に会社の方針を信じ、努力邁進してきた賜物だと思います。

私が入社した1974年（昭和49年、当時フネン材工業（現コンステック））は、中性化抑制工法（リフリート工法）を取り入れ、コンクリート構造物の調査・補修業務が事業の中心でした。

当時は社員数が少なかったので、毎週金曜日に本社に集まり、情報交換や技術的な内容の検討を行っていました。

しかし、社員数が増加するにつれ、情報交換や技術的な内容の共有は責任者のみが本社に集まり行われる様になりました。

1993年にテクニカルレポートが創刊されてからは、26年にわたり、研究開発・施工技術をこのテクニカルレポートで紹介することで、社員全員で技術の共有が出来、更にその技術を向上させ、その後の赤外線診断開発、アスベスト対策、耐震診断・補強工事と大型事業が展開されてきました。

しかし、これらの事業もいつまでも続く訳ではなく、新元号「令和」の時代には新しく会社の事業の柱になる新技術、新事業展開にむけての開発・情報収集が不可欠となってきます。

社員一人ひとりが、次世代に繋がる会社の躍進を目指し、様々な分野、新技術への情報提供をテクニカルレポートに寄せることを期待します。

弊社も地盤改良のスクリュープレス工法に継ぐ、スーパーナロー工法（鋼管杭工法）の開発を進めており、テクニカルレポートで新技術として紹介出来ればと思っております。

最後に、テクニカルレポートがコンステックHDグループの更なる躍進のための技術レポートとなります事を期待し、巻頭の挨拶にかえさせていただきます。